

**秋冬ねぎでネギハモグリバエ、シロイチモジヨトウが多く確認されています！  
ほ場をよく見回り、必要に応じて防除を行いましょう！**

**1 作物名 秋冬ねぎ**

**2 発生現況**

- (1) 10月中旬の秋冬ねぎほ場における巡回調査(以下、巡回調査)の結果、ネギハモグリバエの発生地点率は77.8%(平年43.8%)、被害株率は38.9%(同10.1%)であり、ともに平年より高かった(図1)。
- (2) 巡回調査の結果、シロイチモジヨトウの発生地点率は44.4%(平年0%)、50株当たりの寄生頭数は3.7頭(平年0頭)であり、広域で多くの寄生が確認された(図2)。

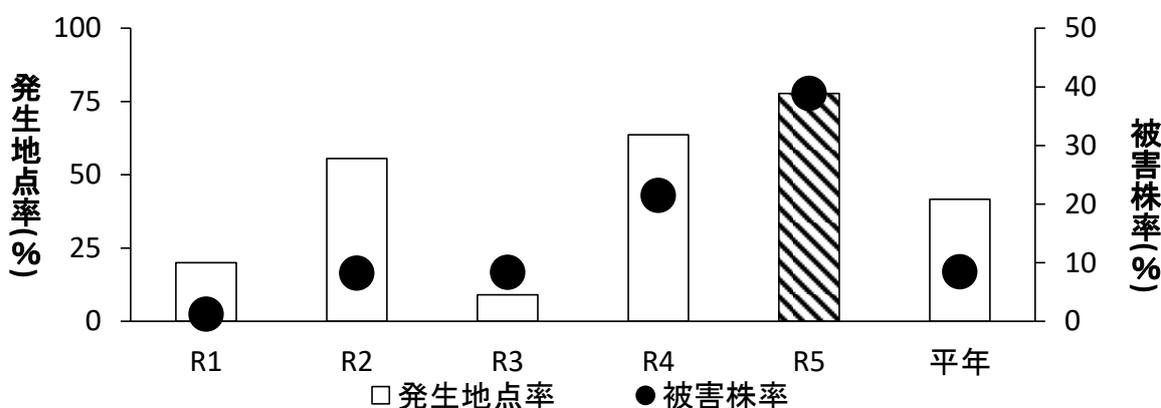


図1:ネギハモグリバエの発生地点率及び被害株率(10月中旬)

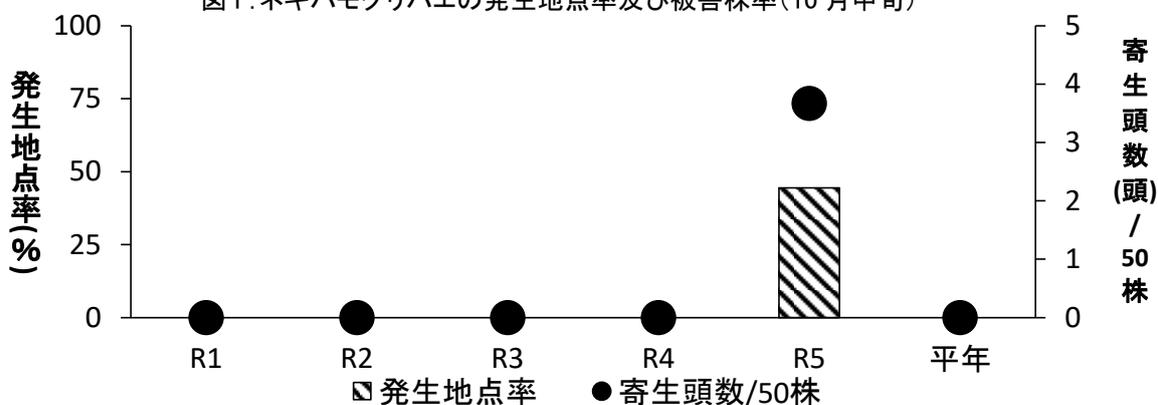


図2:シロイチモジヨトウの発生地点率及び地点(50株)当たりの寄生頭数(10月中旬)

**3 防除のポイント**

**(1) 共通事項**

- ・本年は高温で経過したため、ねぎの生育後期まで害虫による加害が長期間続いており、一部では被害程度が高いほ場もみられる。ほ場をよく見回り発生に注意し、必要に応じ防除を実施する。
- ・害虫の薬剤抵抗性発達防止のため、IRACコードが同じ薬剤の連用を避け、計画的にローテーション散布を行う。

・薬剤については『宮城県農作物病害虫・雑草防除指針』を参考に選定する。

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/miyagi>

## (2)ネギハモグリバエ

- ・翌年の発生につながるため、ねぎの被害残渣は速やかにほ場外に持ち出し、適切に処分する。
- ・従来のネギハモグリバエに加えて、著しい食害痕を呈するバイオタイプB(以下、タイプB)の発生が広域で確認されている(写真1)。タイプBは秋冬ねぎの生育後半から増加し被害が拡大する傾向があるため、ほ場をよく観察し、必要に応じて防除を行う。

## (3)シロイチモジヨトウ

- ・若齢幼虫は集団で表皮を残して食害し、食害部は白く透けて垂れ下がる(写真2)。
- ・中齢以降は分散して葉身内に食入し、内側から食害するため、虫糞が葉身内部に堆積して品質低下の原因となる。
- ・葉身内に入ると薬剤がかかりにくくなり、中齢以降は薬剤による防除効果も低下するので、防除はできるだけ若齢のうちに行う。
- ・本種は特に薬剤抵抗性の発達が早いため、IRACコードが同じ薬剤の連用を避ける。また、被害葉の除去、卵塊・幼虫の捕殺などの物理的防除を組み合わせることで防除を行う。



写真1:ネギハモグリバエ  
(タイプB)被害痕

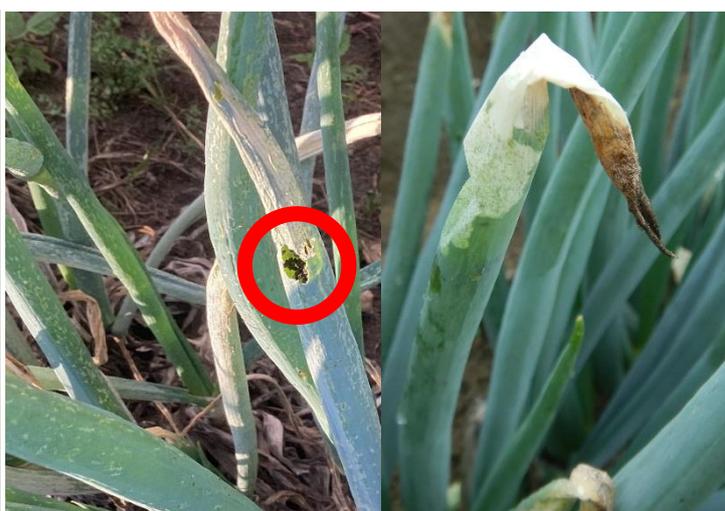


写真2:シロイチモジヨトウ被害株  
(○内:食入痕と虫糞)



写真3:シロイチモジヨトウ中齢幼虫(体長 20 mm程度)

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:[byogai@pref.miyagi.lg.jp](mailto:byogai@pref.miyagi.lg.jp)

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で  
発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所  
トップページ



メルマガ  
登録フォーム